

～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

〔令和5年度実施地区〕 鶴岡市三瀬地区

■ 実施体制

- 実施主体：三瀬地区自治会
- アドバイザー：鈴木淳氏（かさなりデザイン合同会社）
- コーディネーター：庄内総合支庁農業振興課
庄内総合支庁農業技術普及課

■ 地区のプロフィール

- 地区内の世帯数：442世帯
- 主な被害作物：水稲、イモ類、柿など
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ



1. 取組のきっかけ

- 市の西部に位置する三瀬地区は、日本海に面し、背後は山に囲まれた地域である。令和2年12月に集落内でのクマの出没が相次ぎ、その誘因原因となった未収穫の柿の伐採に取り組むなど、鳥獣対策に意識の高い地域である。
- 近年、イノシシが目撃されるようになり、圃場の掘り起こしや農作物被害が増加傾向にある。これまで生息していなかった獣種による被害ということで、その対応に苦慮している。
- 海に面しており冬季の環境（気温・積雪等）が山側に比べ穏やかなため、イノシシの越冬地として定着する恐れもあり、今後もイノシシによる被害の増加が予想されることから、地域として鳥獣対策への取組み、被害の軽減につなげたいと考え、本事業を実施することとした。

2. 取組の内容

※WM柵＝ワイヤーメッシュ柵

●事前打ち合わせ（6/15開催）

- アドバイザー、自治会、地元中学校、県、市職員が集まり、今後のスケジュールについて打合せを行った。
- 現地に赴き、被害状況及びWM柵の設置ルートを確認を行った。

●第1回研修会（7/24開催）

- イノシシの生態や鳥獣被害対策の基礎知識について講義を受けた。
- ワークショップ形式で、集落内の野生動物の出没情報等を地図に落とし込む作業を行い、鳥獣出沒マップを作成した。

●第2回研修会（9/5開催）

- 中学校の実習用の畑でイノシシの掘り起こし被害が発生したことがあり、鳥獣被害が身近にあることを生徒にも認識してもらうため、中学生向けの研修会を開催した。
- 中学校敷地内へのイノシシの侵入を防ぐため、WM柵の設置方法について研修を受け、三瀬地区や周辺集落の住民の方が中心となり柵を設置した。

●第3回研修会（11/7開催）

- イノシシによる掘り起こし被害が見られるため池や周辺農地をまわり、環境や地形、農地の状況を確認し、今後の対策方法を検討した。
- 「対策計画シート」を活用し、年単位の被害対策について検討した。



鳥獣出沒マップ作成



WM柵の設置研修

3. 成果と今後の展望

- 鳥獣出沒マップを作成したことで、集落内に出没する動物や出沒が多い場所が「見える化」され、危機意識が高まった。マップの情報は、侵入防止柵の種類や設置場所の優先順位を検討する際にも活用していく。
- 中学校に侵入防止柵を設置したことで、来校する多数の方の目に留まり、鳥獣被害の認識や対策手法の普及につながることを期待される。今後も集落で適切に管理し、鳥獣被害対策の普及・啓発に努める。
- 集落に寄せない（環境整備）、被害を防ぐ（被害防除）、それでも寄ってくる個体は捕獲するということを方針に、集落が一丸となって、それぞれの対策を多角的に進めていきたい。